

マルマリス宣言

統合的沿岸域管理に関するグローバルコンGRESS ～環境管理政策のクロスロードに立って～

この宣言は、2013年10月30日から11月3日まで開催された2回目のエメックス・メッドコースト・ジョイント会議に参加した40カ国、300人以上の人々により採択された。我々は地中海沿岸に立地するトルコ共和国のマルマリス市に集った。マルマリス市は近隣の陸と海の自然を保全することで美しい景観を保つ一方、環境に配慮した開発を行うことでもたらされる経済的便益を享受しようと努力している町である。

会議の出席者は地中海をはじめ世界の6大陸の沿岸域から集まった行政官、政策立案者、環境管理に携わる者、科学者、学生、教育者などである。

我々は会議のテーマである“教訓から新たな挑戦へ”のもと、新たな発見、懸念、アイデアを共有し、最終的には希望の持てる明るい将来までも共有することができた。

我々は閉鎖性海域の環境管理が政策上のクロスロードに立っていることを知った。科学者達のためまぬ努力とかつてない技術進歩、例えば、リモートセンシング、モデリング、そして電子のコミュニケーション（インターネット）などにより、20年前エメックスとメッドコーストがそれぞれ活動を開始した頃と比べると、沿岸海域やその資源についてははるかに多くのことを知るできるようになった。

現在我々は、沿岸域の水質がどれほど劣化しているかを知っている。また我々は、汚染物質を減少させるために実施してきた行動について、経験を共有し、さらに、生物資源が環境変化にどのように反応するかについて、個々の種のレベルでも、生態系のレベルでも、はるかに良い予測ができるようになった。そして、生態系サービスをより深く理解するようになった。

我々は、汚染物質の負荷量に対し現実的な限度の値を設け、モニタリング方法を改善することで、変化をより正確にアセスメントすることができ、また政策立案者に対して、より効果的、科学的に行動がとれるような情報発信ができるようになった。

こうした状況が更に進み、現在限定的である成功事例が、これから着実に増えていくと信じたい。これこそが我々が学んだ良い教訓である。

しかし、我々は環境管理政策のクロスロードに立っており、目の前には大きな課題があり、まだまだ学ぶべき多くのことがあると認識している。

こうした新しい課題は、文化や政治的状况にかかわらず、社会そのものによって引き起こされる。環境科学や環境政策における重要な、またしばしば有用な努力は、社会的な問題を特定し解決しようとする他の類似の努力には及んでいない。法律や規制は、汚染を軽減し水質の改善に繋がったとしても、人々がどのように生活を営むべきかについては、必ずしも有効な手段となっていない。

温暖化による迫りくる脅威は、社会を政策立案の努力に巻き込むことに失敗している端的な例である。科学が気候変動問題の原因を提示しているにも拘わらず、それらの原因を追及するための努力が時として政治的、経済的また文化的な誤解や変化への抵抗にさらされるのである。

我々は、世界の沿岸域コミュニティの将来を、沿岸域の水質の浄化と資源を持続可能なレベルに戻すことができるかどうかにかかっていることを知っている。また、持続可能な将来が、気候変動と海面上昇の危険に脅かされていることも分かっている。まさしく、我々がこよなく愛し、そして深く経済の拠りどころとしてきたその海によって。

こうしたことを踏まえ、今回の会議宣言では、一つの提案を行いたい。

我々は、現在取り組んでいる沿岸海域の環境研究、政策立案、環境管理、そして環境教育プログラムに社会の関心を惹きつけなければならない。

根底にあるコンセプトを、「里海 (satoumi)」、「ワーキングランドスケープ (working landscape)」、あるいは「生態系に基づく管理 (ecosystems-based management)」など、どのように呼ぼうとも、真の統合的沿岸域管理政策についての我々の努力は、人類が沿岸域の生態系全体の一構成要員であるということの認識にもとづくものでなければならない。また我々は、市民としての日々の活動が、生態系のみならず、社会的、経済的さらに文化的な観点からどのような結末を引き起こすかを知るべきである。沿岸コミュニティに居住する市民は、持続可能な沿岸域の環境の維持には持続可能な社会が含まれなければならないことを学ばなければならない。

自然科学と社会科学が交わる政策立案のクロスロードでは、新しい形の教育、すなわち単に教室にいる若い学生だけではなく、両親、労働者、経営者、官僚など社会の全ての人々を対象とした教育が必要である。市民は、自らがシマズキやイガイの群集、あるいはサンゴ礁と同じように、沿岸環境を構成している一員であると理解しなければならない。

市民は、環境に接し経験し感謝するための機会をもっと多く持つ必要がある。また、理解がより深まるように特別に翻訳された本物の情報を提供してもらう必要がある。そして、日々のコミュニケーション技術となった情報通信技術を使い、より広いネットワークをつくる機会が与えられ、そのネットワークを用いて、沿岸域システムの構成メンバーがそれぞれの能力を発揮するのを妨げるような政策に、変化をもたらしていく必要がある。

環境管理政策のクロスロードから見えるものは、閉鎖性海域の環境管理の新しい目標である。我々は現在よりも良い環境を次世代に残すことが重要だと信じていたこともあった。確かにそれは今も真実である。しかし、今わかり始めた新しい課題に対処するための、出来得る限りのツールを次世代に残していくことも大切である。そのようなツールとは、優れた科学であり、科学に基づいた政策であり、また、モニタリングや教育、そしてコミュニケーションを促す電子技術の発展である。我々は、これら全てを更に改善させていかななければならない。しかし、同時にそれらのツールを、新しい政策立案の装置へと作りこむ必要がある。それは、明日の世代が、ローカル並びにグローバルな沿岸環境における自分たちの立ち位置を理解する能力を高めてくれるものであり、更なる先の世代の立ち位置も示していくものでなければならない。

トルコの詩人、ナーズム・ヒクメットは、「最も美しい海とは、未だ渡ったことのない海である」と詠んでいる。

我々はまだ見ぬ海の航行を助ける政策立案の装置を設計するためのツールを開発し、また知識も得てきた。そうした我々の支援のもと、おそらく次世代はその装置を使って、今はまだほとんど見えていない、遠く離れた向こう岸に近づくことができるだろう。それこそが素晴らしい遺産となるであろう。さあ、今こそ、このクロスロードを後にし、共に胸躍らせるような新しい進路に乗り出そうではないか。それは確実に、世界の沿岸海域のための持続可能な将来に我々を導くはずである。

EMECS10-MEDCOAST2013ジョイント会議

参加者一同

トルコ共和国 マルマリス

2013年11月2日

(事務局仮訳)